

## 意識調査の結果

## (意識調査の概要)

## 調査対象及び回答数

対 象	調査票配布数	有効調査票回収数	回収率(%)
総合学科在校生(平成11年度の3年生)	1,582	1,518	96.0
上記の在校生の保護者	1,582	1,341	84.8
総合学科卒業生(平成10年度の卒業生)	1,575	796	50.5
総合学科の教員	1,107	986	89.1
中学生(平成11年度の3年生)	1,457	1,394	95.7
上記の中学生の保護者	1,460	1,285	88.3
中学校の教員	1,041	811	77.9
大学教員(卒業生を受入れている大学)	50	40	80.0
専門学校教員(卒業生を受入れている専門学校)	168	128	76.2
企業等人事担当者(卒業生を受入れている企業)	157	106	67.5
合 計	10,179	8,405	82.6

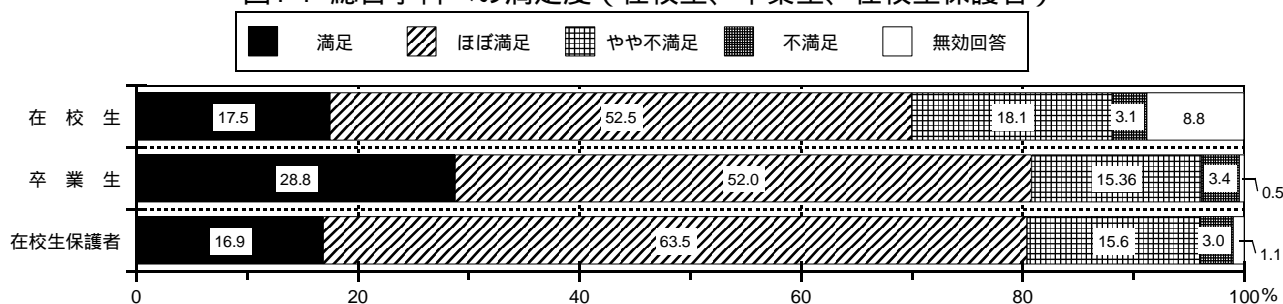
調査時期：平成11年3月～5月

## (積極的に評価されている点)

## (1) 在校生、卒業生、在校生保護者の多くが総合学科に満足している

総合学科の在校生の70.0%、卒業生の80.8%が、総合学科で学んでいること、学んだことに「満足」又は「ほぼ満足」している(図1-1参照)。この結果は、高校生一般(2年生)について学校生活への満足度を聞いた調査結果(「満足」「まあ満足」とする高校生が55.0%(「学校教育に関する意識調査報告書」：平成10年2月：文部省))より満足する生徒の割合が高くなっている。また、在校生の保護者も、わが子が総合学科で学んでいることに、80.4%が「満足」又は「ほぼ満足」している。

図1-1 総合学科への満足度(在校生、卒業生、在校生保護者)



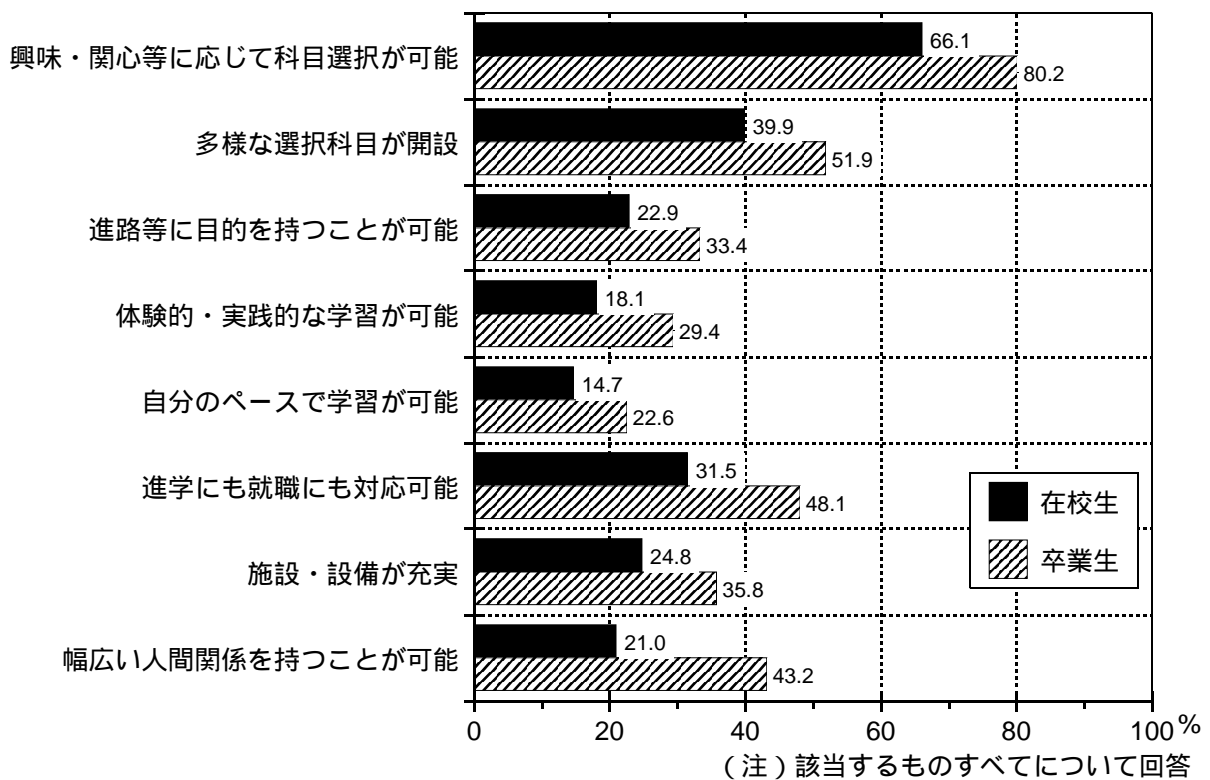
特に満足している点は、次の点である（図 1-2 参照）。

「自分の興味・関心や進路希望等に応じて教科・科目を選択できる」

「幅広い分野にわたって多様な選択科目が開設されている」

「進学希望にも就職希望にも対応した教科・科目を選択できる」

図1-2 総合学科に満足している点（在校生、卒業生）



また、「総合学科で学んでよかったと思うか」について、いずれの進路に進んだ卒業生も高い割合で「そう思う」又は「まあそう思う」としており、大きな差がない（大学進学者 91.3 %、専門学校進学者 86.6 %、就職者 89.0 %）。

(2) 総合学科の教育の特色が評価されている

総合学科の特色について、「そう思う」「まあそう思う」と評価している事項として、在校生、卒業生、在校生保護者、教員ともに、次の4点を多く挙げている(図2-1参照)。

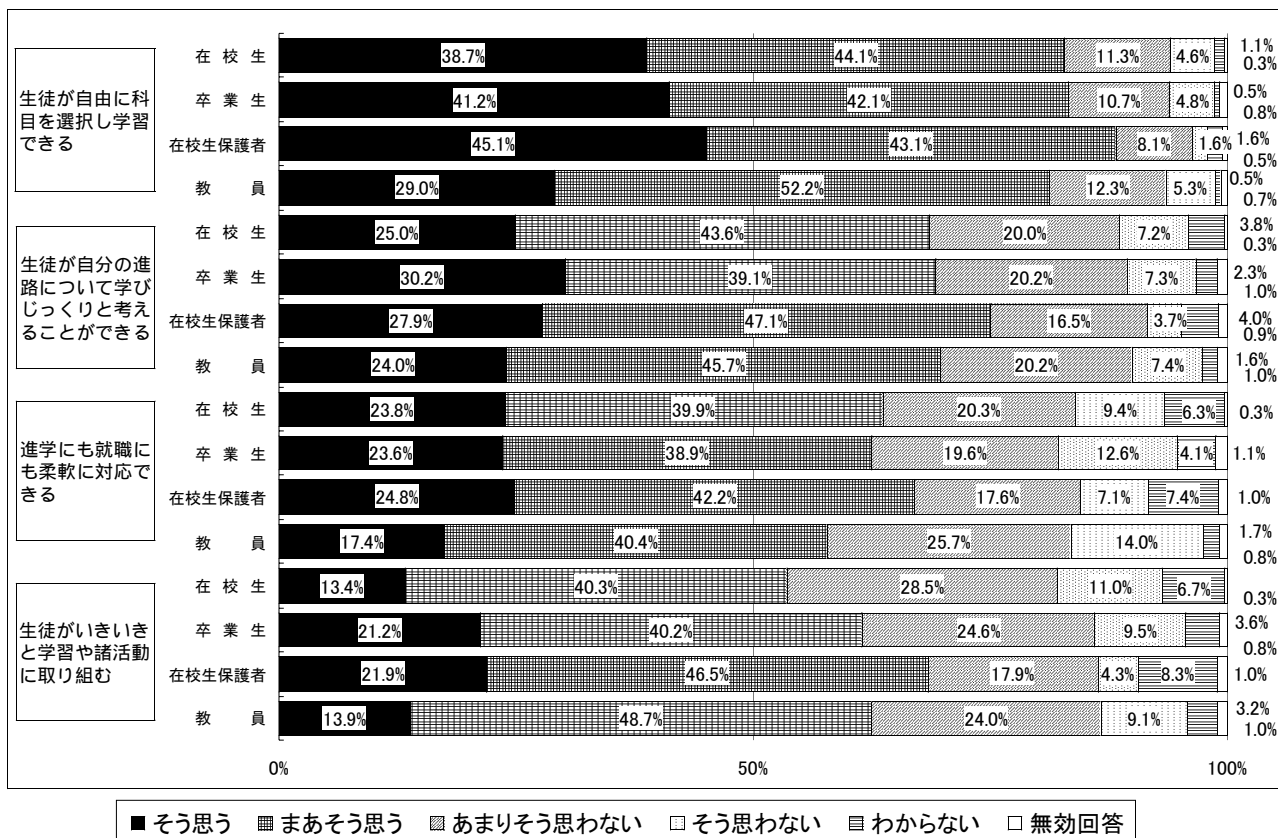
「生徒が自分の興味・関心や進路希望に応じて、自由に科目を選択し学習できる」(それぞれ82.8%、83.3%、88.2%、81.2%)

「生徒が自分の進路について学び、じっくりと考えることができる」(68.6%、69.3%、75.0%、69.7%)

「進学にも就職にも柔軟に対応できる」(63.7%、62.5%、67.0%、57.8%)

「生徒がいきいきと学習や諸活動に取り組んでいる」(53.7%、61.4%、68.4%、62.6%)

図2-1 総合学科の特色(在校生、卒業生、在校生保護者、教員)

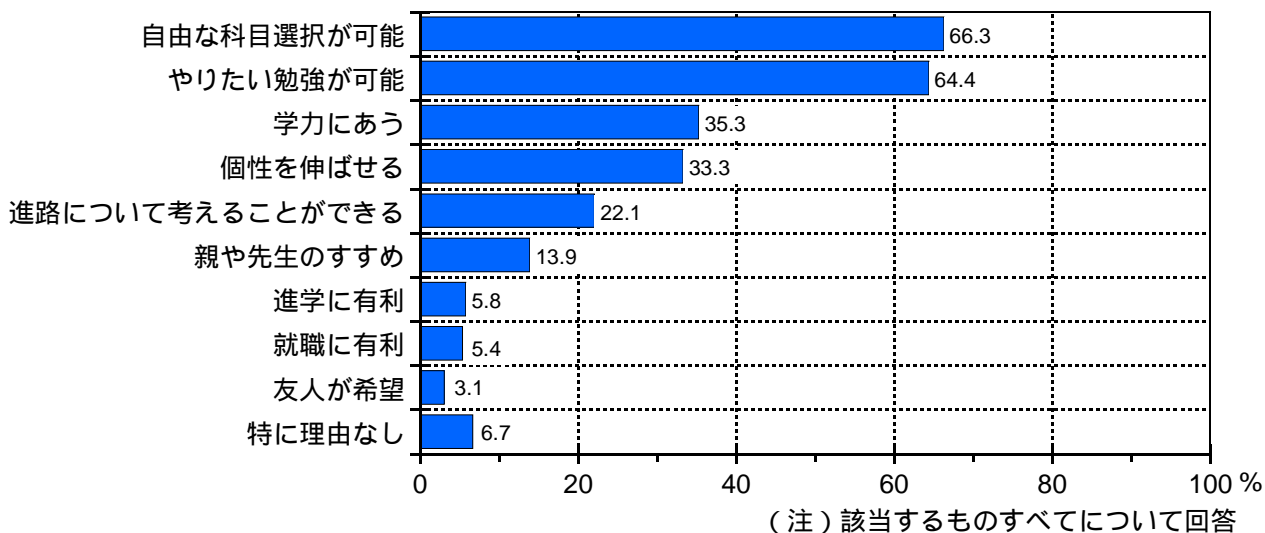


(3) 生徒は「やりたい勉強」をするために総合学科を選んでいる

総合学科を選んだ理由について、在校生の多くが「自分で自由に学ぶ科目を選択できるから」(66.3%)、「自分のやりたい勉強ができると思うから」(64.4%)といった、総合学科の設置のねらいや教育の特色に係る理由を挙げている。これらに比して、「自分の学力にあっているから」(35.3%)、「進学に有利だから」(5.8%)、「就職に有利だから」(5.4%)を挙げている者の割合は低い(図3-1参照)。

「該当するものについて2つまで回答」となっているために「あてはまるものすべてに回答」となっている本調査とは単純に比較はできないが、平成10年度に文部省が実施した「中学校における進路指導に関する総合的実態調査」で、高校1年生が、「現在在学している学校を選んだり理由」をみると、普通科では「自分の学力にあっているから」(49.7%)、「進学に有利だから」(27.2%)が多く、職業学科では「将来希望する職業に役立つ学力や技術が身に付くから」(43.2%)、「就職に有利だから」(33.7%)が多い。これに対し「自分のやりたい勉強ができると思ったから」については、普通科では6.0%、職業学科では22.0%となっている。

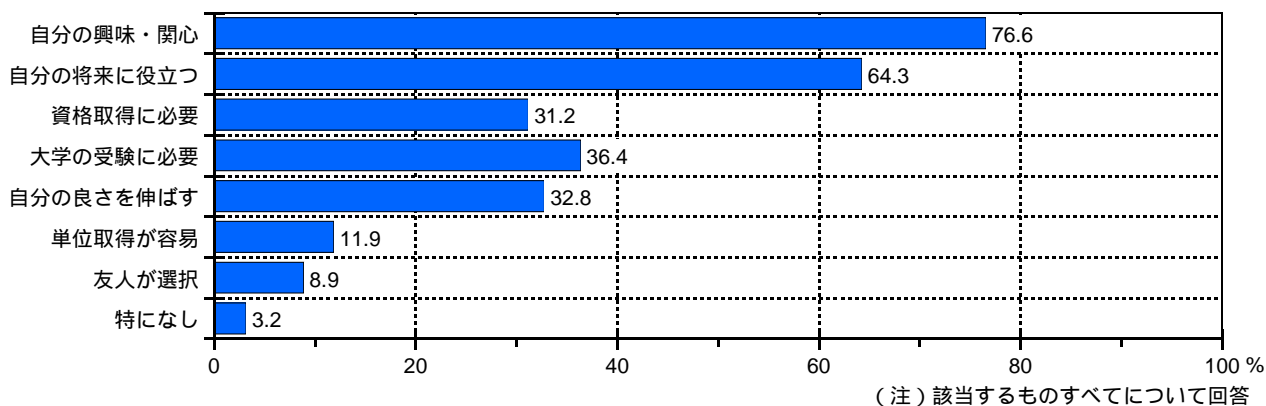
図3-1 総合学科を選んだ理由(在校生)



(4) 生徒は積極的な科目選択を行っている

どのような基準で自分の選択する科目を決めているかについて、在校生の多くが、「自分の興味・関心のある科目」(76.6%)「将来の生き方や希望する職業などに役立ちそうな科目」(64.3%)が多く、次いで、「希望する大学の学部・学科の受験に必要な科目」(36.4%)、「自分の得意教科等、自分の良さを伸ばすための科目」(32.8%)、「資格取得に必要な科目」(31.2%)となっている。一方、「単位取得が容易そうな科目」(11.9%)、「友人が選択している科目」(8.9%)を挙げている者の割合は低い(図4-1参照)。

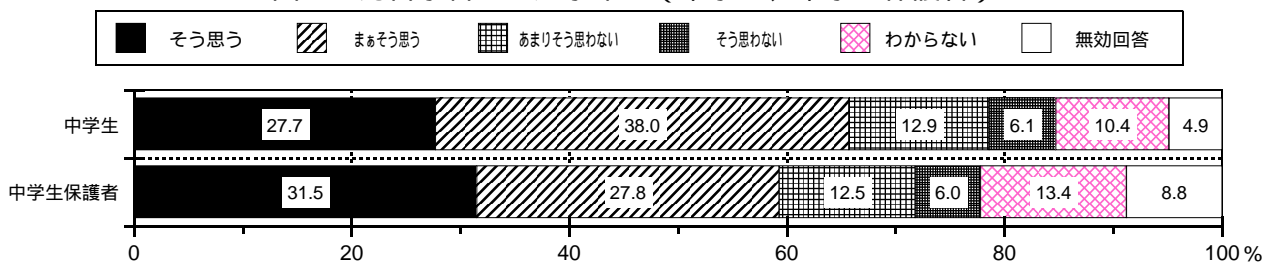
図4-1 科目選択の観点(在校生)



(5) 中学生及びその保護者の約6割が総合学科への進学を希望している

調査対象の中学生及びその保護者に総合学科の特色を説明した上で総合学科への進学希望の有無を尋ねた結果、「総合学科への進路希望」について中学生の65.7%が「そう思う」(27.7%)又は「まあそう思う」(38.0%)と回答し、「自分の子供を総合学科に進学させたいと思うか」について保護者の59.3%が「そう思う」(31.5%)又は「まあそう思う」(27.8%)と回答しており、中学生及びその保護者の総合学科への進学希望の高さが伺える(図5-1参照)。

図5-1 総合学科への進学希望(中学生、中学生保護者)

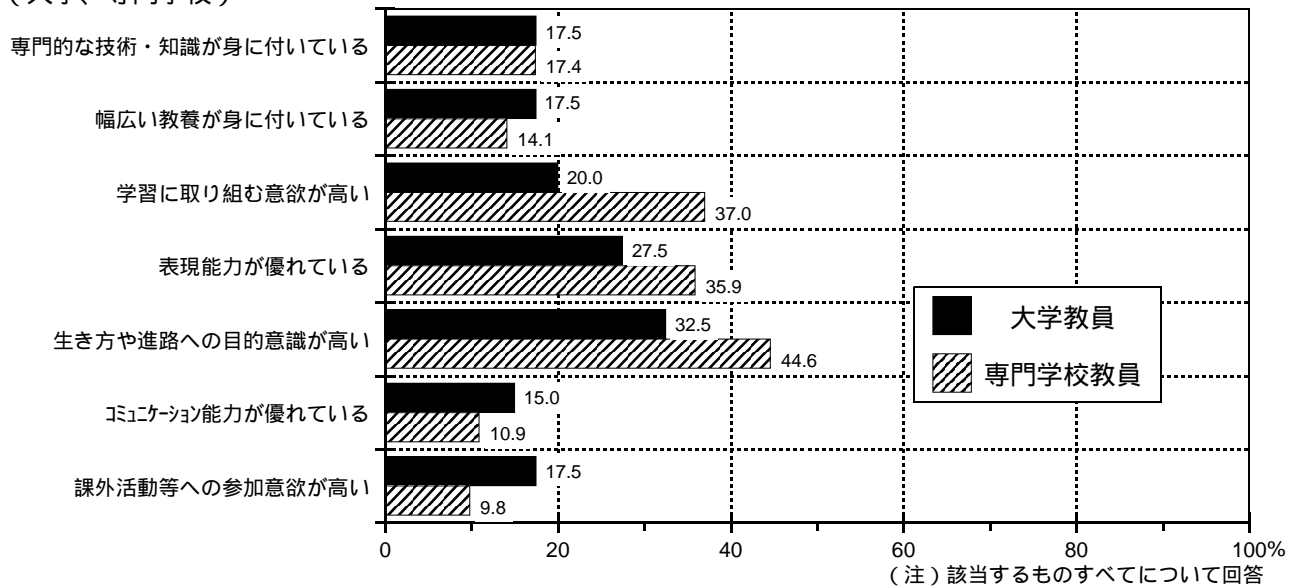


(6) 卒業生の進路先からは、目的意識の明確さや学習・仕事への意欲の高さ、表現能力等が評価されている

総合学科卒業生を受け入れている大学、専門学校の関係者は、総合学科卒業生の特徴として「生き方や進路への目的意識が高い」(32.5%、44.6%)「学習に取り組む意欲が高い」(20.0%、37.0%)「表現能力が優れている」(27.5%、35.9%)を挙げる者が多い(図6-1参照)。

(大学、専門学校)

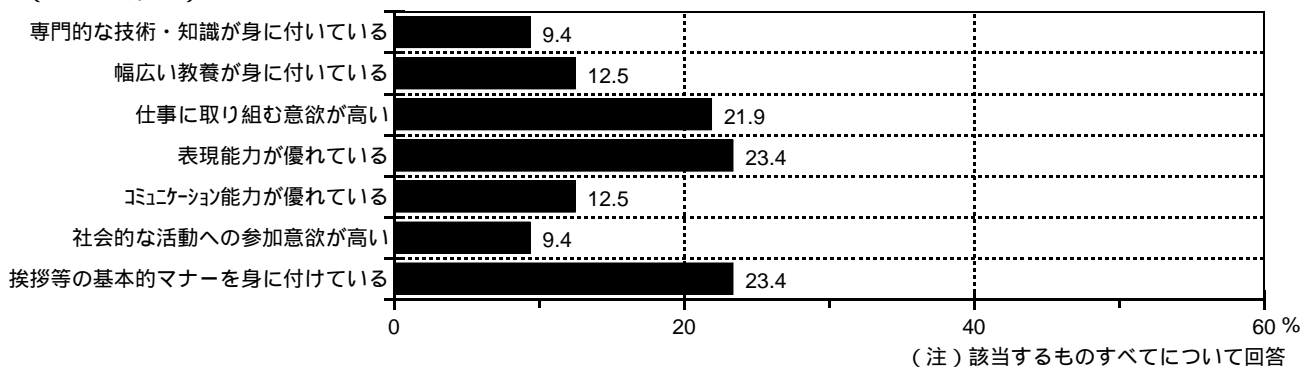
図6-1 総合学科卒業生の特徴(大学、専門学校)



総合学科卒業生を受け入れている企業等の関係者は、総合学科卒業生の特徴として「表現能力が優れている」(23.4%)「挨拶等の基本的マナーを身に付けている」(23.4%)「仕事に取り組む意欲が高い」(21.9%)を挙げる者が多い(図6-2参照)。

(企業)

図6-2 総合学科卒業生の特徴(企業等)

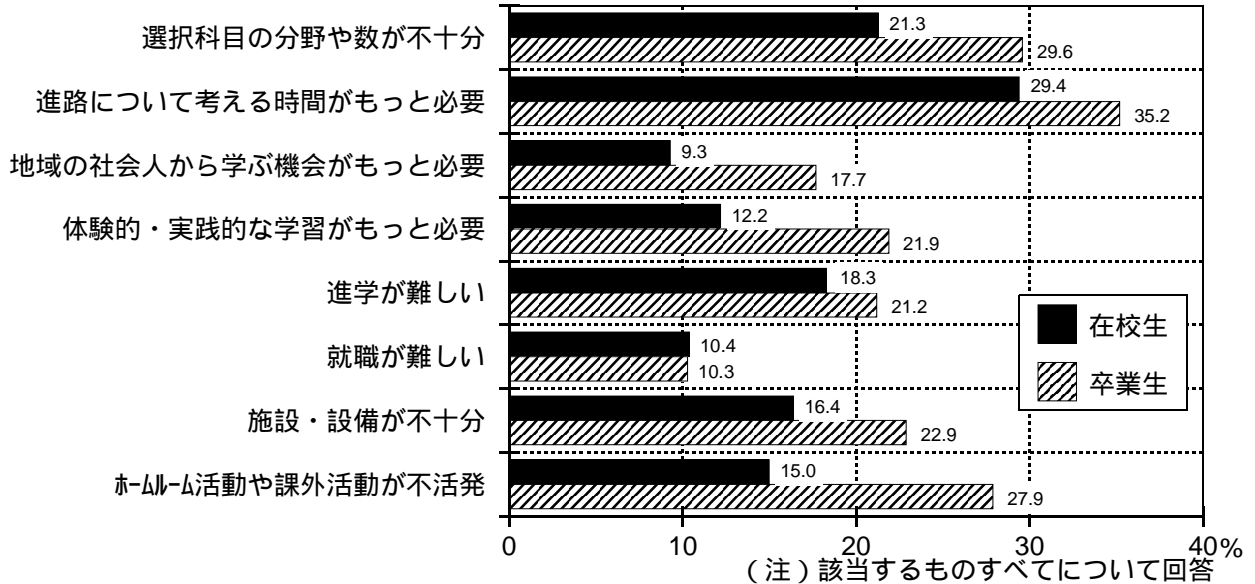


(課題となる点)

(7) 進路について考える時間がもっと必要

総合学科で不満足な点として、在校生、卒業生ともに「進路についてじっくりと考える時間がもっと必要である」(29.4%、35.2%)ことを挙げる者が一番多い(図7-1参照)。

図7-1 総合学科に不満足な点(在校生、卒業生)



(8) 地域との連携や高校改革にかかわる諸制度の一層の活用が必要である

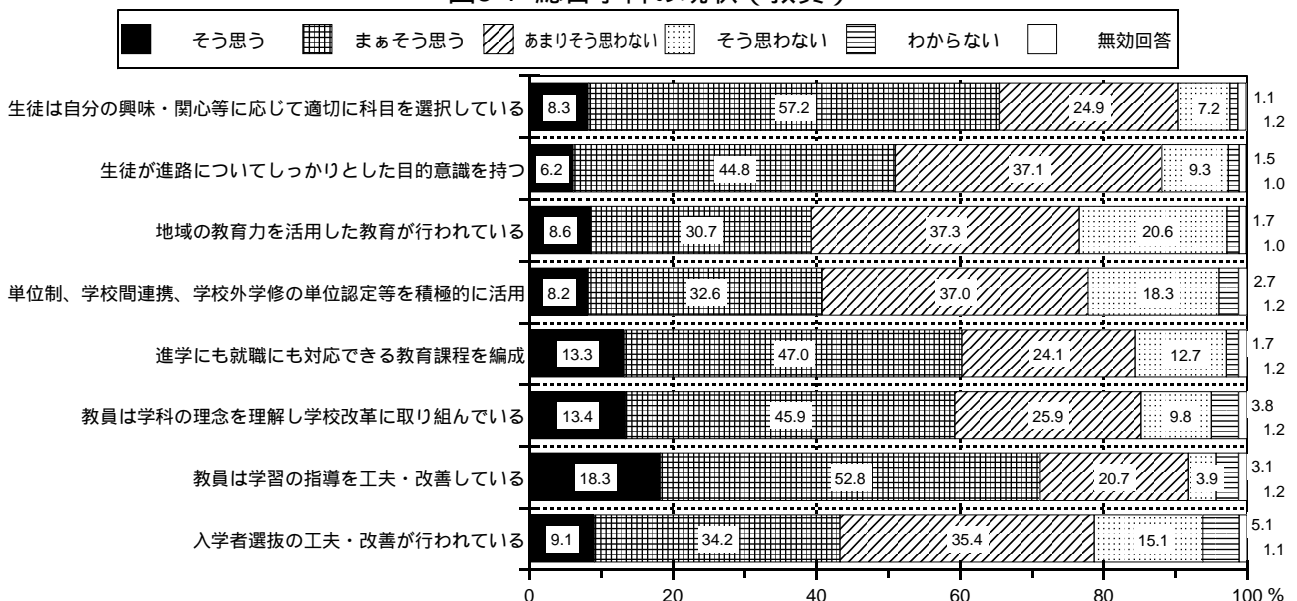
総合学科の現状について、教員は、以下の諸点について、「そう思わない」「あまりそう思わない」としている者が多い(図8-1参照)。

「地域と連携して、その教育力を活用した教育が行われている」こと(57.9%)

「単位制、学校間連携、学校外における学修の単位認定など、高等学校教育に関する諸制度が積極的に活用されている」こと(55.3%)

「入学者選抜においては、生徒一人一人の個性を多面的に評価するための工夫・改善が行われている」こと(50.5%)

図8-1 総合学科の現状(教員)

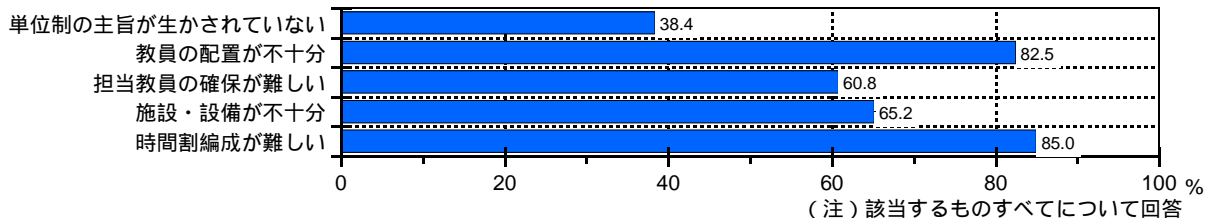


(9) 学校運営に係る諸問題への対応が求められている

総合学科における学校運営に係る問題として、教員が多く指摘していることは、以下の諸点である。

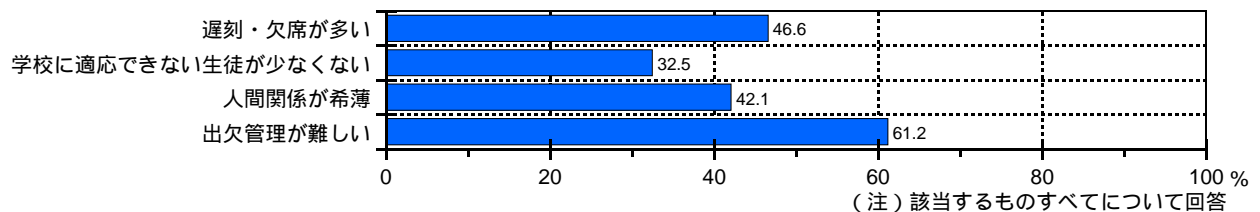
教育課程編成上の課題：「時間割編成が難しい」（85.0%）、「教員の配置が不十分」（82.5%）を挙げる者が多い（図9-1参照）。

図9-1 教育課程編成上の課題（教員）



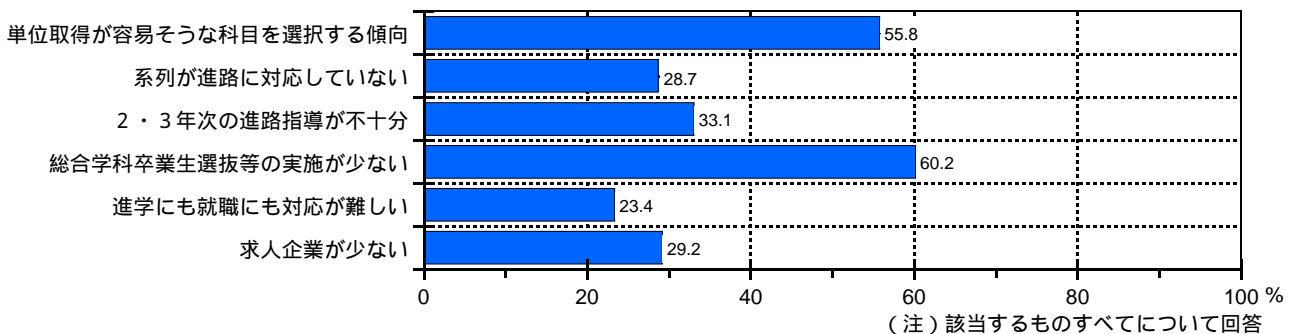
生徒指導上の課題：「授業の出欠管理が難しい」（61.2%）を挙げる者が多い（図9-2参照）。

図9-2 生徒指導上の課題（教員）



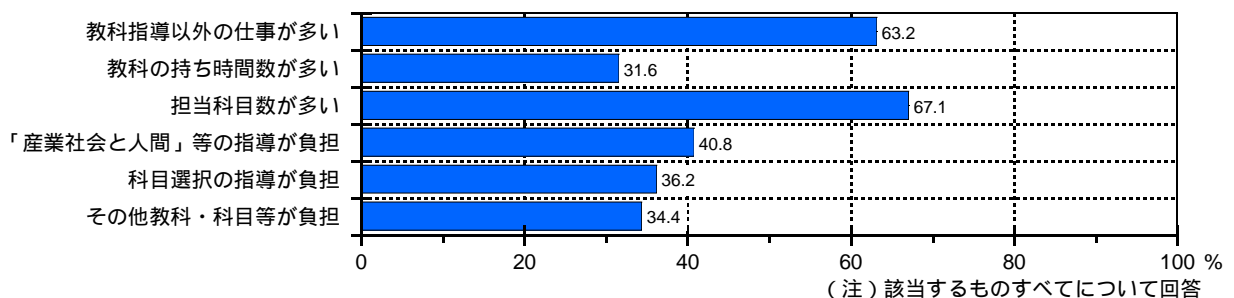
進路指導上の課題：「総合学科卒業生選抜や推薦入学を実施する大学が少ない」（60.2%）、「単位取得が容易そうな科目を選択する傾向がある」（55.8%）を挙げる者が多い（図9-3参照）。

図9-3 進路指導上の課題（教員）



教員の勤務上の課題：「担当科目数が多い」（67.1%）、「校務分掌等、教科指導以外の仕事が多い」（63.2%）を挙げるものが多い（図9-4参照）。

図9-4 教員の勤務上の課題（教員）





(10) 総合学科に対する中学生及びその保護者の認知度を高める必要がある

総合学科設置校と同一または隣接市町村にある中学校で、総合学科について「よく知っている」「少しは知っている」としている中学生及びその保護者は、それぞれ 38.1%、36.8%である。また、総合学科設置校と同一または隣接市町村外にある遠方の中学校では、総合学科について「よく知っている」「少しは知っている」としている中学生及びその保護者は、それぞれ 15.5%、20.7%に過ぎない。また、中学校の教員は、総合学科が近くにある中学校教員は「よく知っている」「少しは知っている」としている者が 77.4%であるが、遠方の中学校教員は 57.6%にとどまっている(図 10-1 参照)。

また、総合学科について「あまり知らない」「全く知らない」とする中学生及びその保護者は、総合学科が近くにあるか、遠方であるかの別にかかわらず、あまり知らない理由として、「総合学科のパンフレット等を配られたことがない」「先生から説明を受けていない」を挙げる者が多い。また同様に教員については、総合学科についてあまり知らない理由として「総合学科に関する情報に接する機会が少ない」を挙げる者が多い(図 10-2 参照)。

図10-1 総合学科の認知度(中学生、中学生保護者、中学校教員)

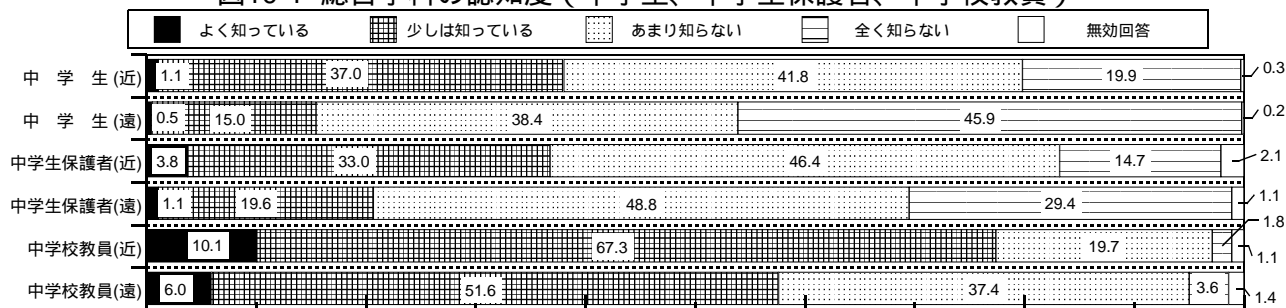
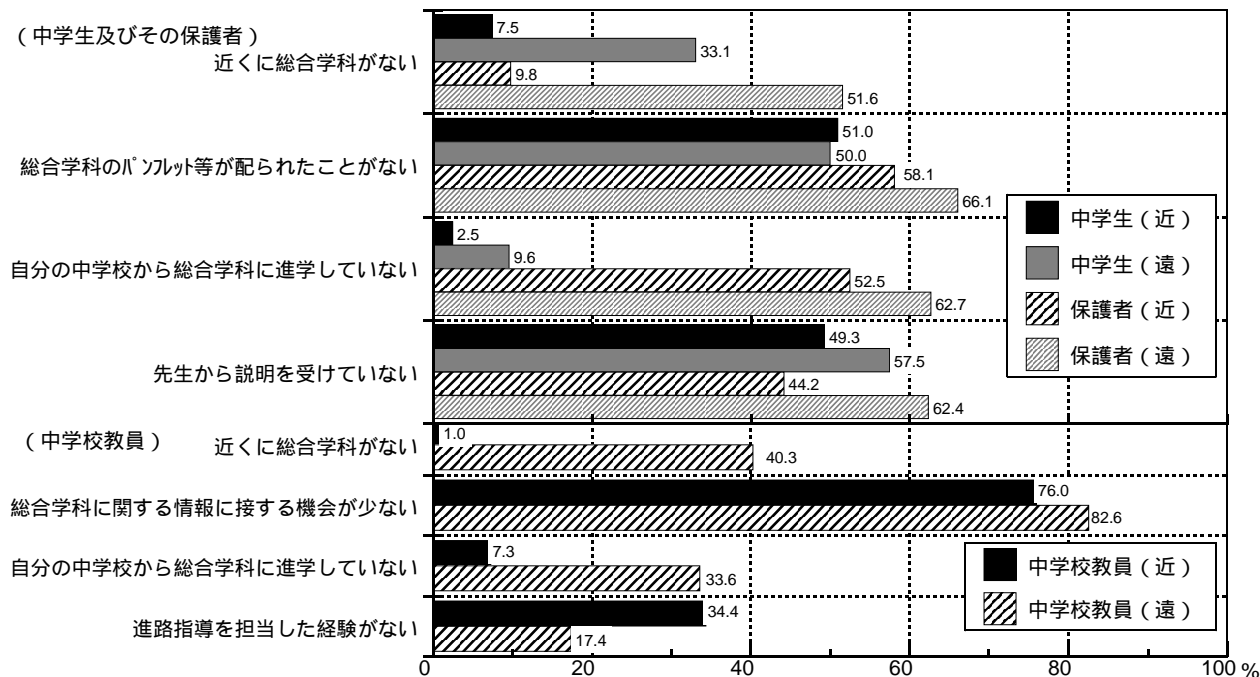


図10-2 総合学科についてあまり知らない理由



(注) (近)・・・総合学科設置校と同一又は隣接市町村内にある中学校  
 (遠)・・・総合学科設置校と同一又は隣接市町村外にある遠方の中学校で、かつ、平成10年度までに総合学科への進学者のいない中学校  
 該当するものすべてについて回答

総合学科は何色？

在校生調査で、総合学科のイメージを色で表すと何色かと聞いたところ、「白」「青」「虹色」の順が多かった(白21%、青17%、虹色10%、緑10%、黄6%)。

## 意識調査における主な自由記述の例

### 1 総合学科の在校生・卒業生の自由記述

#### (1) 進路について考える時間や科目選択に関する記述の例

「この職業に就きたいのなら、どんな科目を取った方がよい」というようなアドバイスをしてくれたらよいかなと思う。

将来なりたい職業を決めていない人には、科目を選択するのが大変です。だから、もっと自分の将来について考え悩む時間が必要な気がします。

入学時や科目選択の前などにもっと詳しく先生達が説明してくれれば、100%自分の満足した時間割が作れたと思う。

将来を十分に考えていないと、後で後悔したりするので、将来を考えたり、話し合ったりする時間がもっとあった方がいいと思う。

自分は何に進むためにどれを選択すればいいのか、個人的に先生と相談をしてから決定する方がよい。

もっと生徒に「どうなりたいのか」「どんなことを学びたいのか」などを聞く時間を先生方が増やすべきだと思う。

もっと多くの選択教科があるとうれしい。

総合学科で、いろいろな分野の科目を学ぶことで、様々な職業を知ることができた。

総合学科が設置されることにより、多くの科目が増えるので、その科目についてどのような科目なのか説明をして欲しい。

#### (2) 「産業社会と人間」に関する記述の例

「産業社会と人間」は1年生の時だけしかなかったので、せめて2年生まであってほしかった。

「産業社会と人間」では、生徒の行きたい学校(大学・専門学校)などを調整し、できる範囲での学校見学をやってほしい。

もう少し「産業社会と人間」のような授業を増やしてほしい。いろいろな人の意見や考え方を聞けるような機会を多く作ってほしい。

「産業社会と人間」では、もっと見学に行った方がいいと思う。

#### (3) 地域との連携や体験学習に関する記述の例

1年次のうちだけではなく、2、3年次でも企業見学、進学校見学をもっとたくさんしたいと思った。

職場見学や、実際にその職業の1日の仕事を体験(事前にしっかり調べたり学習したりした上で)できるようにしてほしい。もっと地域社会に直接こちらから触れられる機会を。

職場見学ができる職種を増やして、生徒それぞれの希望にあった職場に見学に行けたらいいと思います。

授業において、本物のプロフェッショナルと触れ合う機会がもてればよい。

( 4 ) 中学校での進路指導に関する記述の例

総合学科は本当に生徒の主体性にかかっていると思います。高校にはいる前の指導や総合学科に対する見方や知識を増やしたり培わないとだめだと思います。

総合学科がどういう学校かを、中学生にきちんと知ってもらうことが大切だと思う。

高校に入学したときから進路を選択するまでの期間で具体的な進路を想像できる人は少ないと思う。もっと総合学科の利点を伸ばすには、小・中学校から連続しての教育が必要だと思う。

夏休み等の体験入学以外にも、もっと入学希望者や保護者に総合学科についての知識を身に付けてもらう必要がある。

PP ( パーソナル・プレゼンテーション ) のような、人材を見抜くような試験で、その学校に入ることによって個性が伸びそうな人たちを少しでも多く入学させればいいと思います。

( 5 ) 進学、就職に関する記述の例

総合学科の自由性を伸ばすためにはまず第一に大学入試制度から変えていって欲しい。せっかく選択したい科目があっても受験のために断念せざるを得なかったり、興味を持って選んだ科目が予備校にあるようなくならない受験対策だけだったりするととてもがっかりする。

もう少し、総合学科で学んでいる人たちに、大学推薦の門戸を広げてもいいと思います。

( 6 ) その他の記述

先輩、後輩が関係ないので、いろいろ友達ができる。

各自が自分の興味のある教科や将来のために必要な教科を選択できるということはとてもいいことだけど、みんながバラバラに選択し、授業を受ける教室等も全く違うので、なかなかホームルームのクラスでいられないというか、あまりクラス単位で動くことがないので少し寂しい。

他の学校と比べてクラスの人間関係が希薄な感じがします。HRのほかに何かクラスがまとまるような授業があるとうれしいです。

総合学科とは何なのかが、いまいち知られていないと思うので、もっとPRするといい。

総合学科は、全て自分次第なので、自分がしっかりしてくるのでとても良いものだと思います。

卒業生の成功談も失敗談も在校生に聞かせる機会を持つ。

総合学科は単位制なので、大学や短大などに入ったときに、スムーズに計画がたてられる。

「課題研究」が3年次にあるのは、進路のこともあるので、2年次の頃から2年かかりですれば、内容もより濃くなって良いかもしれない。

## 2 総合学科の教員の自由記述

「産業社会と人間」の内容は素晴らしい。3年間を通したカリキュラムにして、優れた実践の交流をすればよい。

総合学科高校同士の連携・情報交換・研究を密に図るべきである。

中高連携を通じ中学校への積極的PR。総合学科のみの宣伝ではなく、高校教育全般に係る中高の連携が必要である。

各学校の情報交換を活発にすべきである。

近隣の総合学科校同士の研究発表や、各分科会（例えば、科目選択の指導と時間割の編成・生活指導等）の場を持つべきである。

「地域合同総合制高校」を要望する。（将来的に）その地域にある全ての高校を総体として「地域合同総合制高校」1校として捉え、それぞれA校、B校...と呼ぶ。従って、生徒のみならず教職員も地域合同総合制高校の生徒、教職員として把握される。

やはり大学・就職先の方々の理解が必要。もっと進路を開拓すべき。

外部講師を依頼しやすい環境（人材バンクの整備・金銭的保障）をつくって欲しい。